

## VI 資料

### 1 沖縄21世紀農林水産業振興計画(抜粋)八重山圏域

#### 世界に誇れる日本最南端の優れた自然と農林水産業の共生

##### (1) 農林水産業の特徴

八重山圏域の農業については、総農家数が県全体の6%で耕地面積が21%を占めており、地域特性を生かし、さとうきび、水稻、パイナップル等が栽培されるとともに、特に肉用牛については本県一の産地となっている。また、観光客等のニーズに応え、マンゴー、パイナップル等の熱帯果樹生産が伸びており、平成25年から供用された新空港の開港に伴い、更なる進展が期待されている。

農業の品目別拠点産地については、かぼちゃ、オクラ、ヘリコニア、レッドジンジャー、パイナップル(生食用)、薬用作物(ボタンボウフウ)、肉用牛の9産地が拠点産地として認定されており、生産振興に取り組んでいる。

特に、おきなわブランドの戦略品目である肉用牛において、子牛生産の他に石垣牛等の肥育牛の生産も展開されており、生産の拡大及びブランド化に向けた取り組みが行われている。

石垣島においては、国営かんがい排水事業石垣島地区が着工し、既存水源(5ダム)を総合運用することで農業用水の再編を行い、新に石垣島北部及び西部の農地への農業用水の確保をはじめ、農業用ダムを活用したかんがい施設や区画整理及び農地防風施設等各種の生産基盤の整備が展開されており、肉用牛やさとうきびを中心に、安定的に確保された農業用水を活用したマンゴー等の熱帯果樹、熱帯性花き、野菜等特色ある農業生産が展開されている。

森林については、森林の有する多面的機能を発揮するため、特に木材生産や水源かん養を目的に森林の整備を行っている。

水産業は、恵まれた海域条件を生かした一本釣り、潜水器漁業、パヤオ漁業、近海まぐろ延縄漁業等が行われており、また、クルマエビやモズク等養殖も生産を伸ばしてきている。

また、本圏域は自然に恵まれ、体験・滞在型のグリーン・ツーリズム、森林ツーリズム、ブルー・ツーリズムを通じた地域活性化が期待される地域である。

項目	数量	県対比 (%)	備考
農家総数	1,249戸	6.2	2015年農林業センサス (平成27年)
販売農家数	1,172戸	8.2	
主業農家数	471戸	9.5	
農業就業人口	1,582人	7.9	
耕地面積	7,986ha	20.7	耕地面積調査 (平成27年)
田	493ha	58.0	
畑	7,501ha	19.9	
林野面積	40,857ha	36.7	2015年農林業センサス (平成27年)
漁業経営体数	265経営体	10.1	2013年漁業センサス (平成25年)

##### (2) 振興方向

###### ア 農業

本圏域の農業は、亜熱帯気候特有の自然条件を生かし、地形、土壌、気温等に適応した品目が生産されている。その中でも肉用牛を筆頭に、さとうきび、葉たばこ、水稻、パイナップル、豚、マンゴー、花きなどが盛んである。それ以外の野菜、熱帯果樹、薬用作物、畜産等についても多様な品目で展開しており、おきなわブランド育成を図り、農家経営の安定に資するためには品目の選択と集中による拠点産地を形成し生産振興を推進する。

畜産については、畜産クラスターの仕組み等を活用し生産基盤の強化を図るとともに、経営安定対策等を実施する。

また、かんがい施設や区画整理等の生産基盤の整備を推進するとともに、既設施設の再編・更新を図り、農業用水の有効活用等を促進する。さらに、台風等気象災害から農作物被害を防ぐための防風林整備や赤土等流出問題の総合的な対策を推進し、農地保全及び環境負荷の低減を図る。さとうきび、パイナップル、水稻などについては、生産性及び品質の向上に努め、肉用牛、野菜、花き、果樹などについてはブランド化を推進する。

さらに、新規就農者等の育成については、経営資源の提供や研修の開催、経営・技術指導等の支援など強化を図る。農林水産業を取り巻く研究課題については、生産現場や普及指導機関等との連携を図り、課題解決と迅速な普及を推進する。

また、観光リゾート地域としての特性を生かし、これら観光施設への供給等域内の需要に対応した野菜、熱帯果樹等の生産拡大に努め、地産地消の促進を図るとともに、体験・滞在型のグリーン・ツーリズムを促進する。

周辺離島の竹富町の西表島においては、さとうきび、パインアップル、熱帯果樹、かぼちゃ、水稻等を中心に生産の振興を図るとともに、肉用牛との経営の複合化を促進する。

波照間島については、さとうきびを中心に肉用牛、モチキビ等、小浜島については、さとうきびを中心に肉用牛等、黒島については、肉用牛の振興を図る。

与那国町については、さとうきび、水稻、肉用牛、薬用作物の生産を振興し、経営の複合化を促進する。

(ア) さとうきび

生産性及び品質を向上させるために、優良品種の増殖普及や適期栽培管理、株出栽培体系の推進、有機物の施用や緑肥作物の栽培、防風・防潮林の普及啓発等を図るとともに、肉用牛との複合化や葉たばこ・野菜等との輪作体系を推進していく。

また、さとうきび経営安定対策に対応した担い手を育成するため、農地所有適格法人、農作業の受託組織等生産組織を育成・強化するとともに、「さとうきび増産計画」等に基づき、生産者をはじめ、関係者が一体となった増産対策により、生産の増大に向け取り組む。

(イ) 野菜

定時・定量・定品質の安定生産を図ることを基本に、気候変動等に対応したハウスや防風・防虫等ネット栽培施設、農業用機械の導入を促進し、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん等の安定生産に努めるとともに、土づくり、防風対策、販売対策の強化により生産拡大を図り、拠点産地の形成・育成を推進する。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(ウ) パインアップル

パインアップル栽培に適した酸性の国頭マージ土壌の地域では、生食用品種を中心に生産が行われおり、観光産業へも大きく貢献している。

今後とも生食用優良品種の導入及び開花処理技術の組み合わせによる出荷期間の拡大、農業用機械等の導入等により生産性及び商品価値の向上を図るとともに、生食用果実の生産拡大を推進する。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(エ) 熱帯果樹

マンゴーについては、優良品種の導入、栽培技術の改善、気候変動等に対応したハウスの導入などを図る。観光産業へも大きく貢献しているマンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、バナナ等の安定生産及び品質向上を目指し、拠点産地の形成・育成に努める。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(オ) 花き

防風・防虫等ネット栽培施設や気候変動等に対応したハウス等の整備、新技術の普及を推進し、レッドジンジャー、ヘリコニア等熱帯花き拠点産地としての周年安定出荷体制の確立、ブランド化の推進に努めるとともに切り葉等の生産拡大を図り、流通・販売対策の強化を推進する。

(カ) 水稻

栽培技術及び病虫害防除技術の向上等により安定的な生産を図る。さらに、消費者ニーズに対応して環境に配慮した米づくりを推進するとともに、生産コストの低減を図り、所得の向上に努める。

(キ) 葉たばこ

生産性及び品質の向上や作業の省力化に努め、安定的な生産を図る。

(ク) 畜産

肉用牛については、ブランド化の推進、自給飼料基盤の整備、優良種畜の導入・育成、放牧地高度利用の推進及び飼養衛生管理技術の改善等により、供給基地としての産地形成を推進する。さらに、生産基盤強化のため畜舎の整備等を行う。

また、畜産の環境対策を促進するため家畜排せつ物処理施設の整備を推進し、耕畜連携による資源循環型農業を促進するため、堆肥センターの活用を推進するとともに、地力の維持増進を図り、飼料自給率の向上に努める。

イ 森林・林業

水源地域においては、水源のかん養を図るための森林の整備及び保全を推進するとともに、その保全のために保安林の計画的な指定や適切な管理、治山施設の整備を行う。

貴重な動植物が生息・生育する森林については、適正な保全を図りつつ、森林環境教育や保健・休養及び森林ツーリズムの場として森林の整備を推進する。

さらに、森林・林業に精通したガイドの養成等を図り、森林ツーリズムを推進する。

また、木材の生産を重視すべき区域においては、林業の持続的かつ健全な発展を図るため、森林組合等林業事業者の支援を行う。

(7) 林産物

リュウキュウマツ等の計画的な生産及び収穫伐採体制を確立するため、効率的な伐採技術の確立、及び流通・販売体制を強化する。また、木炭等の生産拡大に努める。

ウ 水産業

地域特性を生かした水産業の振興を図るため、漁港・漁場等の生産基盤を整備し、生産体制を強化する。

また、流通・販売体制の強化を図り、販路の確保・拡大に取り組む。

漁業者等に対して各種学習会や巡回指導を実施することにより、漁業者の資質向上、資源管理に対する啓発を図るとともに、漁業後継者の育成を行う。

さらに、地域資源の利活用や都市との交流を促進するため、体験漁業等ブルー・ツーリズムを推進する。

(7) 海面漁業

持続的な生産活動が維持されるよう、研究機関と連携したハタ類、マチ類等の資源管理を推進する。また、マグロやソデイカ、シャコガイ類等の生産拡大を図るため、流通・販売対策の取り組みを支援する。さらに、海洋保護区の設定とブルー・ツーリズムとの連携による新たな海洋・観光・水産資源の創出に向けた取り組みを行う。

(イ) 海面養殖業

登野城魚類養殖場を拠点とするハタ類の魚類養殖やシャコガイ類、クルマエビ、モズク等の生産拡大を図るため、漁業者に対する技術指導や魚病防疫体制を整備するとともに、流通の機能強化を図る。

(重点振興品目)

【耕 種】	さとうきび、水稻、葉たばこ、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん、レットジンジャー、ヘリコニア、切り葉、パインアップル（生食用）、マンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、かんしょ、薬用作物
【畜 産】	肉用牛
【林 業】	木材、木炭
【水産業】	クルマエビ、モズク、マグロ類、カジキ類、ソデイカ、ヤイトハタ、シャコガイ類、タカセガイ、マチ類、フエフキダイ類

資料：沖縄21世紀農林水産業振興計画（後期）（平成29年5月策定）より抜粋

## 2 認定及び表彰関係

### (1) 「おきなわ食材の店」登録制度

沖縄県では、沖縄県産食材を積極的に活用した料理の提供を通して、県民のみなさんや観光客のみなさんに県産食材の魅力を発信していただける県内飲食店を「おきなわ食材の店」として登録しています。

八重山管内では、令和2年11月までに45店舗が登録されています。

No	店名	住所
1	石垣島 スペイン料理&レストランカフェ ハイビスキャット	石垣市 石垣257-3
2	BAR NOBU	石垣市 美崎町12-8 TOMOビル1F
3	炭火焼肉 たけさん亭	石垣市 浜崎町2-2-4
4	うさぎや 本店	石垣市 石垣1-1
5	さよこの店	石垣市 登野城町170番地
6	味処 のりば食堂	石垣市 登野城619番地
7	郷土料理 琉球の爺(おやじ)	石垣市 浜崎町2-1-7
8	マリティーム	石垣市 新川2459-1
9	漁師の居酒屋 一魚一会	石垣市 大川216 ピュアネスイシダ1F
10	和琉ダイニング みふね	石垣市 新川1129-2
11	Hau tree gelato ハウ トゥリー ジェラート	石垣市 大川281
12	海人居酒屋 源 総本店	石垣市 大川286 源ビル2F
13	美味食彩花HANA	石垣市 大浜466-15 2F
14	海人居酒屋 なつや	石垣市 美崎町10-17
15	沖縄居酒屋 石垣島	石垣市 石垣14-3
16	焼肉専家 いしなぎ屋	石垣市 大川43番地
17	炭火焼肉 畑人	石垣市 大川559
18	石垣島ミルミル本舗	石垣市 新川1583-74
19	石垣島ミルミル本舗 石垣空港店	石垣市 白保1960-104-1 (石垣空港内)
20	海人居酒屋 源 美崎店	石垣市 美崎町16-10
21	海人居酒屋 源 新栄店	石垣市 新栄町25-5
22	海人居酒屋 源 平得店	石垣市 平得175-3
23	海人居酒屋 源丸	石垣市 新川2373-13
24	森の賢者	石垣市 新川49-2
25	旬家 ばんちゃん	石垣市 白保13-1
26	ゆくい処 海人めし	石垣市 大川286 源ビル1F
27	海鮮館 どてっぺん	石垣市 八島町2-4
28	石垣牛と海鮮の店 こてっぺん	石垣市 美崎町12-7
29	沖縄料理と洋食の店 NO.4	石垣市 美崎町1番地 (福宝堂ビル2F)
30	辺銀食堂	石垣市 大川199-1
31	石垣牛と海鮮の店 てっぺん	石垣市 大川15-4 ワコーレKAMIJI 1F
32	ぬちぐすいレストラン はいむるぶし	竹富町 字小浜2930
33	琉夏 るか	竹富町 字上原10-357
34	西表★星空シーサイドカフェちゅら星	竹富町 字上原546-3
35	レストハウス&ペンション星の砂	竹富町 字上原289-1
36	農家民宿 マナ	竹富町 古見202
37	ピアガーデン 国境 (ハテ)	与那国町 字与那国22-4
38	ピストロスマイル	石垣市 登野城624 赤嶺マンション101
39	石垣牛専門 焼肉金城 石垣島大川店	石垣市 大川278
40	ファミリー居酒屋 源	石垣市 新川730(あやばにポウル内)
41	Shiraho 家 Café しらほ・いえカフェ	石垣市 白保42-3
42	八重山酒家 楽	石垣市 大浜116-2
43	はりはりハウス	石垣市 新川1627
44	ガーデンバナ	石垣市 崎枝239-14
45	島料理居酒屋 あだん亭	石垣市 大川430 1F

#### 「おきなわ食材の店」登録基準

- 1 年間を通して、提供しているメニューの半数以上が地産地消メニューであること。
- 2 地産地消メニューとは、県産食材を半数以上使用したメニューであること。
- 3 使用している県産食材について、積極的に情報提供を行っていること。



## (2) 第44回沖縄県さとうきび競作会表彰

第44回沖縄県さとうきび競作会表彰式が新型コロナウイルスのため中止になったことから、6/11に八重山地区受賞者の表彰式がJAおきなわ八重山地区本部で行われ、4農家が表彰された。

優良農家の部では伊保正明氏(石垣市)が沖縄県3位となり、沖縄県知事賞を受賞した。伊保氏は、植付後の除草や適期肥培管理、梅雨明け後の灌水作業の徹底により甘蔗糖重量2,211kg/10a、蔗茎重量9,080kg/10aを記録した。特別表彰の部では、大嵩善立氏(竹富町小浜島)、次呂久栄重氏(石垣市)が長年に亘る糖業振興に尽力されてきた功績が認められ、糖業振興協会理事長賞を受賞した。また、機械収穫エキシビションの優良モデルとして多大な功績をあげたことで、石垣英邦氏(石垣市)に糖業振興協会より感謝状が贈られた。



受賞者らの記念撮影

## (3) 令和2年度青年農業者会議 プロジェクト発表最優秀賞受賞

11月13日に那覇市で開催された令和2年度沖縄県青年農業者会議のプロジェクト発表の部において、石垣島ファーマーズクラブの東内原航太氏が最優秀賞に選ばれ、令和4年度に開催される九州・沖縄地区青年農業者会議への出場が決まった。

東内原氏は、「ダニを雇って害虫退治」と題して発表。ゴーヤー栽培における天敵利用に挑戦し、勉強会や検証等を通して、現在ではゴーヤーにおける天敵利用の先進農家となった。また、普及性、実用性、啓発性のある取り組みである点が審査員に評価された。



東内原航太氏(前列左)



#### (4) 令和2年度農事功績者表彰 受章

令和2年度農事功績者表彰の伝達式が八重山合同庁舎で行われ、仲松益實、須磨子御夫妻が緑白綬有功章（りょくはくじゅゆうこうしょう）の伝達を受けた。

農事功績者表彰は、公益社団法人大日本農会（明治14年設立）の事業の一つとして行われており、本年の農事功績表彰者は、全国で65名、県内からは、農事改良等への功績が顕著な者に贈られる緑白綬有功章に仲松益實、須磨子御夫妻の受章が11月16日に発表された。例年11月に総裁秋篠宮皇嗣（こうし）殿下のご臨席の下、東京で挙行されている表彰式が新型コロナウイルス感染症の終息がみられないこと等を鑑み中止となり、石垣島での伝達式となった。

益實氏は、長年にわたりハーベスターのオペレーターやさとうきび原料委員を務め、ハーベスターの機械改良の提案により機械作業性の改善等の地域への貢献が評価された。また、須磨子氏は、沖縄県初の農業経営改善計画の夫婦連名による共同認定を受け、農山漁村社会参画のベストパートナー賞を受賞するなど共同認定農業者として部門別経営を取り入れ若手女性農業者の農業に関わる意欲となり女性農業者の経営参画・社会参画への貢献が評価された。



仲松益實、須磨子御夫妻(前列中央)

#### (5) 第14回沖縄県防災農業賞 受賞

令和2年度「防風林の日」関連行事として開催された「第14回沖縄県防災農業賞」の表彰式が宮良公民館で行われ、組織の部で石垣島Fruit組合（代表：伊志嶺雅也氏 組合員5戸）、個人の部で野原正次・ゆかり夫妻が受賞した。

石垣島Fruit組合は、マンゴー生産農家で構成され、平成25年の設立当初に整備したハウスの周辺に、防風林としてイスノキ、テリハボク、ハイビスカス、オオギバショウ等を植栽し、定期的に整枝・剪定を実施することで台風被害を軽減できており、他の果樹栽培農家の模範的モデルとなっている。野原正次・ゆかり夫妻は熱帯花きの生産農家で、25年前から1.5haの農園の環境整備としてアレカヤシ・オオギバショウ・クロトンをほ場の周辺等に植栽し、暴風対策と土壌流出防止対策をとっている。剪定した葉や枯葉等をマルチ資材として活用し、土壌流出や赤土の飛沫による汚れを防ぐと同時に雑草害、病害を防ぎ、農業の使用も最小限に留めるなど、防風林を多面的に活用し環境負荷を少なくした持続可能な花卉生産への取り組み等が評価された。



伊志嶺雅也氏(左から3人目)、野原ゆかり氏(左から4人目)

## (6) 令和2年度 沖縄県農林漁業賞 受賞

令和2年度「沖縄県農林漁業賞」は7部門、9個人、4集団が受賞され、八重山管内の受賞者は農産部門で水稲・さとうきび生産者の仲新城長公氏（石垣市）、園芸部門でJAおきなわ八重山地区営農振興センターオクラ生産部会（部会員103名：代表：東内原辰雄氏）、農山漁村地域活性化部門で細崎さわやか生活改善グループ（会員3名：代表：大城由美氏）である。

仲新城長公氏は、戦後まもなくから水稲とさとうきび生産に携わり、島内でいち早く農地集約化と大型機械導入による大規模経営を進めるとともに、丁寧な栽培管理によって高単収、高品質を維持し続けた。平成5年の岩手県の大冷害の際には、地域の中心となって水稲種子緊急増殖事業に取り組み、事業を成功に導いたことも、高く評価されている。また八重山地域の水稲部会3組織を統合した現在の水稲生産部会の立ち上げに準備委員会役員として熱心に関わり、組織活動の礎を築くことに尽力されたこと、そして今もお同組織の相談役として地域の後継者育成にも貢献している姿勢が評価された。

JAおきなわ八重山地区営農振興センターオクラ生産部会は、郡内でも歴史のある生産部会であり、これまで郡内の園芸品目のリーダーとして園芸振興に貢献してきた。「県内で最も早く出荷できる産地」として、オクラのブランド化に向け栽培技術の改善や品質の向上を図り、市場からも高い評価を得ている。これまで部会員が一丸となり、周年を通して高品質、安定供給産地づくりに意欲的に取り組んできた姿勢が評価され、今回受賞することとなった。

細崎さわやか生活改善グループは、昭和58年（1983年）6月1日に結成し生産物である「もずく」の商品化に取り組んだ。生活改善グループの下部組織として、平成2年（1990年）に「もずく加工部」を立ち上げ、「塩蔵もずく」にこだわりを持って販売を開始した。販売当初から、デザイン、内容量、価格に島内販売とリゾート販売に差別化を図り取り組んで来た。その実績が認められ、竹富町から小浜島港ターミナル内販売店の運営を委託され、平成18年（2006年）に販売部を発足し「くば屋あ」を開業した。「くば屋あ」を拠点に八重山の島々から、農林水産物の加工品や手工芸品等の受託販売を開始した。また、竹富町物産公社と連携し、地元の特化した「島土産」の開発や販路拡大に尽力した。長年に渡る活動の結果、平成17年度には「食アメニティ・コンテスト」優良賞、平成20年度には「農山漁村女性チャレンジ活動表彰」優良賞を受賞、平成22年度には「沖縄、ふるさと百選」（生産部門）に認定されている。地元の特化した商品の開発など、小浜島における農漁村女性のリーダー的組織として活躍し、農漁村女性の地位向上にも寄与するなど、地域への貢献度が高くこれまでの活動が評価された。



仲新城長公氏（左から2人目）、オクラ生産部会長 東内原辰雄氏（中央）  
細崎さわやか生活改善グループ代表 大城由美氏（右から2人目）



(7) 第46回沖縄県畜産共進会枝肉部門 ヤイマ・ブリーダー・ランチ優秀賞1席受賞

石垣市で黒毛和種の繁殖・肥育一貫経営を行っているヤイマ・ブリーダー・ランチが、第46回沖縄県畜産共進会枝肉部門で、最優秀賞にあたる優秀賞1席を受賞した。当受賞枝肉は、枝肉重量547.1kg、ロース芯面積90cm<sup>2</sup>、バラの厚さ9.8cm、皮下脂肪厚2.1cm、BMSNo.12という成績を収めた。ロース芯面積や枝肉重量が大きく、歩留基準は全国平均74.6を上回る78.9であり良好な枝肉と評価された。

ヤイマ・ブリーダー・ランチは、JA石垣牛肥育部会員として活動しており、JA石垣牛枝肉共励会においては、第25回（平成29年度）に最優秀賞を受賞している。また、沖縄県種雄牛の普及向上を図るため、県の検定試験に協力し、優秀な種雄牛の作出に貢献している。



(8) 令和2年度第31回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会 小波本牧場が最優秀賞受賞

11月20日に、石垣市で第31回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会が開催され、小波本牧場が最優秀賞を受賞した。当受賞枝肉は、脂肪交雑、バラの厚さ、歩留基準値が非常に優れていると評価され、枝肉単価3,600円で取引された。小波本牧場はJA石垣牛肥育部会員として活動しており、過去のJA石垣牛肥育部会枝肉共励会でも入賞を果たしている。今回の共励会では、第46回沖縄県畜産共進会枝肉部門で優秀賞1席を受賞したヤイマ・ブリーダー・ランチも入賞した。

褒賞	生産者	性別	血統			出荷月齢	ロース面積	バラ厚さ	皮下脂肪	歩留基準	BMS	格付	枝肉重量
			父	母の父	祖母の父								
最優秀賞	小波本牧場	雌	福増	福栄	平茂勝	32	75	9.0	2.0	77.6	12	A5	459.5
優秀賞	ヤイマ・ブリーダー・ランチ	去	百合白清2	安福久	勝忠平	29	83	8.0	1.4	77.5	12	A5	541.5
優良賞	比嘉 豊	去	幸紀雄	美国桜	安福勝	30	75	9.3	2.4	76.6	12	A5	533.0

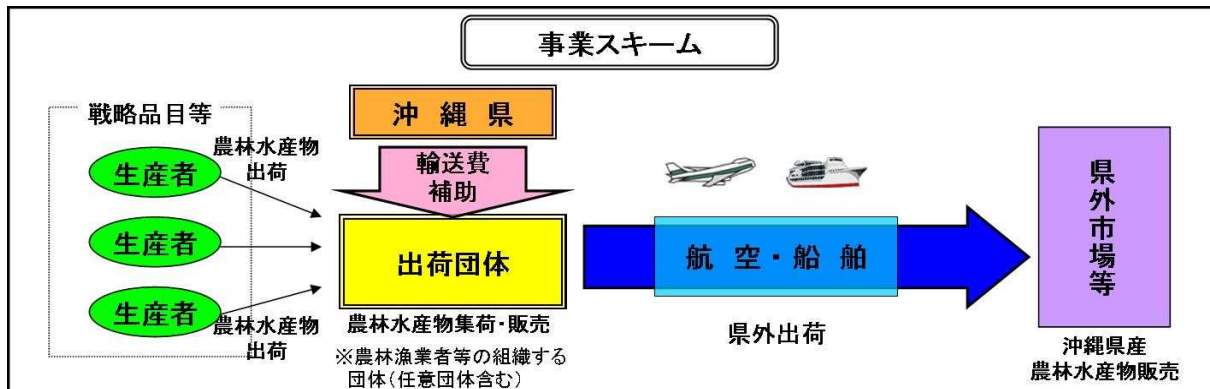




### 3 新たな事業展開

#### (1) 農林水産物流通条件不利性解消事業

沖縄県の課題とされている、遠隔地であることによる流通条件不利性を解消するため、沖縄県では、出荷団体が県産農林水産物を本土出荷する際に要する輸送費の一部を補助する事業を、平成24年度から実施しています。(沖縄振興特別推進交付金を活用)



この事業は、出荷団体が県産農林水産物（戦略品目等）を本土に出荷する際、鹿児島県並の負担となるよう輸送費の一部を補助するもので、輸送費負担が軽減されることによって、本土他産地と同等の条件下での市場競争が可能となり、本土出荷時期の拡大や出荷量の増加が期待されています。

令和元年度の実績は、沖縄県全体で出荷量61,861トン、補助額26億1,713万円、八重山地区では出荷量3,734トン、補助額3億2,663万円となっています。

令和元年度事業実績(出荷量及び補助額)

(単位:トン、千円)

区分	八重山地区		沖縄県全体	
	出荷量(トン)	補助額(千円)	出荷量(トン)	補助額(千円)
野菜	464	41,033	12,992	716,093
花卉	38	5,495	15,815	889,363
果樹	1,857	168,614	2,818	228,875
水産物	1,320	108,007	21,755	607,092
畜産物	30	1,832	8,388	168,584
その他	24	1,649	93	7,123
合計	3,734	326,631	61,861	2,617,130

補助対象品目

区分	品目		
野菜	さやいんげん	ゴーヤー	レタス
	スイートコーン	ばれいしょ	さといも
	オクラ	かぼちゃ	とうがん
	すいか	メロン	ニンジン
	ピーマン	島らっきょう	トマト
	きゅうり		
花き	輪ぎく	小ぎく	スプレーギク
	洋ラン	トルコギキョウ	ストレリチア
	ヘリコニア	レッドジンジャー	ソリダコ
	観葉鉢物	切り葉	
果樹	マンゴー	パパイヤ	中晩柑類(タンカン、天草、南香)
	パッションフルーツ	シークワーサー	パインアップル
	アセローラ	びわ	アテモヤ
	スターフルーツ	ドラゴンフルーツ	温州みかん
かんしょ	かんしょ		
薬用作物	薬用作物類		
木材	リュウキュウマツ等県産材		
特用林産物	きのこ		
畜産物	肉用牛	豚	
	クルマエビ	モズク	スギ
水産物	ヤイトハタ	海ぶどう(クビレズタ)	アーサ(ヒトエグサ)
	マグロ類	ソデイカ	カジキ類

令和元年度補助額《主な基準額》

【航空】

地域	品目	補助単価
本島	花き・水産物	80円/kg以内
	野菜・果実	60円/kg以内
宮古	花き・水産物	140円/kg以内
	野菜・果実	115円/kg以内
石垣	花き・水産物	145円/kg以内
	野菜・果実	120円/kg以内

【船舶】

地域	品目	補助単価
本島	花き	35円/kg以内
	花き以外	20円/kg以内
	モズク	10円/kg以内
宮古・石垣	全品目(※)	35円/kg以内
	モズク	15円/kg以内

(注)輸送品目のうち、「モズク」は除く

## 4 その他紹介

### (1) 拠点産地認定品目

令和3年3月現在

作物	対象品目	認定市町村	認定年月日
野菜	オクラ	石垣市	平成18年10月17日
	カボチャ	竹富町	平成26年3月26日
花き	ヘリコニア	石垣市	平成19年6月21日
	ジンジャー類	石垣市	平成19年6月21日
果樹	パインアップル (生食用)	石垣市	平成19年8月10日
		竹富町	平成20年3月27日
肉用牛	肉用牛(子牛)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(肥育)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(子牛)	竹富町	令和2年2月13日
かんしょ	紅いも	石垣市	平成29年5月9日
薬用作物	ボタンボウフウ	与那国町	平成18年3月30日



## (2) 沖縄県農地中間管理機構の概要について

### I. 農地中間管理機構とは

○農地中間管理機構とは、農地の出し手と受け手(担い手)の仲介役として、受け手(担い手)への農地集積・集約化に取り組む「信頼できる農地の中間的受け皿」として「農地中間管理事業」を行う機関です。

○沖縄県では、公益財団法人沖縄県農業振興公社が沖縄県知事より農地中間管理機構として指定を受け、平成26年4月1日より「農地中間管理事業」を実施しています。

### II. 農地中間管理事業の概要

○農地中間管理事業とは、「人・農地プラン」と一体的に推進し、認定農業者、認定新規就農者などの地域の中心的担い手へ農地集積・集約化を図り、農地の有効利用や農業経営の効率化を進める事業として、以下のことを実施します。

- ①出し手から農地を借受け、集約化して受けて(担い手)へ貸付け
- ②機構が預かっている農地の管理(最長で2年間)
- ③必要と判断される場合の農地の利用条件整備
- ④農地集積・集約のために必要とされる農地の売買

○受け手への農地の貸付けについては、借受希望農地のある市町村窓口や農業振興公社で、公募により随時募集を行っています。

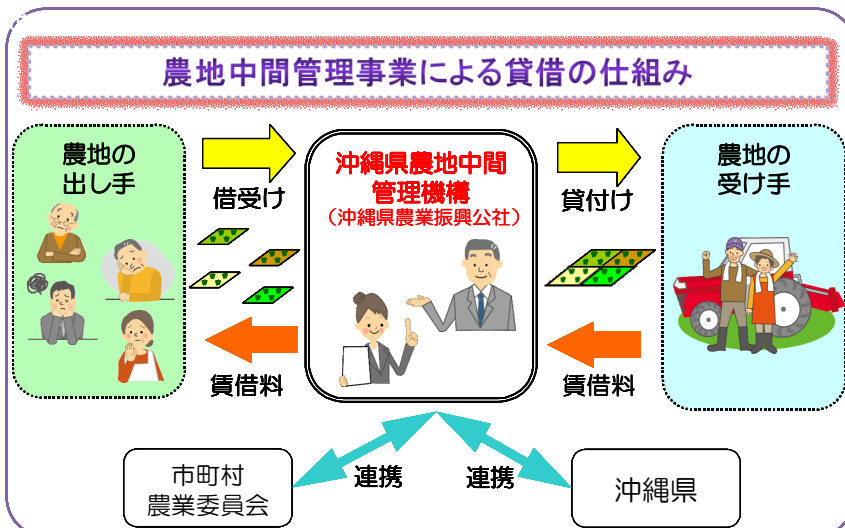
### III. 農地中間管理事業を活用するメリット

#### 【農地の出し手のメリット】

- ①賃料の徴収・支払いは、農地中間管理機構が責任を持って行います。
- ②農地借入れ契約期間の満了時には、農地所有者に確実に返ってきます。
- ③借入れた農地は、借り手が見つかるまで、最長で2年間適切に管理し、その間の出し手への賃料は、機構が支払います。
- ④出し手が農地中間管理機構へ、農地を10年以上貸し付けるなど一定の要件を満たせば、賃借料とは別に「機構集積協力金」の交付を受けられる場合があります。

#### 【農地の受け手(担い手)のメリット】

- ①農地を集積・集約化し、できるだけ、まとまった農地を受け手(担い手)へ貸し付けるので、農業経営の効率化が図られます。
- ②農地借入れ期間の満了時まで、安心して耕作することができます。
- ③機構は、出し手と受け手(担い手)との仲介役として、複数の出し手との個別調整や事務手続き等を行うので、煩雑な手続きが解消されます。





### (3) 国営土地改良事業「石垣島地区」

#### 事業目的

本地区の基幹的農業水利施設は前歴事業等により整備されたが、事業完了以降、空港等の整備による農地面積の減少や受益地域への編入を希望する農家が存在するなど水需要に変化が生じている。

また、施設造成から相当の年月が推移しており、施設の性能低下が生じ、施設の適正な維持管理に多大な費用と労力を要している。このため、前歴事業の改修を行うとともに、新規受益を編入した既存水源（底原ダム・真栄里ダム・石垣ダム・名蔵ダム・大浦ダム）の総合運用による再編整備を行い、地域特性を生かした農業生産性の維持・向上を図り、農業経営の安定に資する。

#### 概要

- ・事業名：国営かんがい排水事業
- ・地区名：石垣島（一期）地区
- ・関係市町村：沖縄県石垣市
- ・事業工期：平成26年度～令和10年度
- ・受益面積：4338 ha
- ・主要工事：ダム（改修） 5ヶ所  
頭首工（改修） 3ヶ所  
揚水機場（改修・新設）6ヶ所  
用水路（新設） 50km  
用水路（改修） 55km

#### ①地区内の営農：栽培作物の多様化



日本一早い田植え  
（超早場米：2月）



施設野菜：熱帯果樹の展開

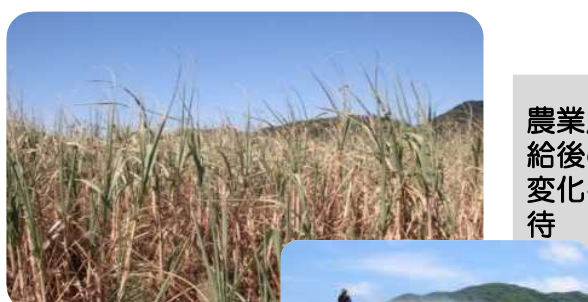


石垣牛ブランドを支える  
牧草地の拡大

#### ②老朽化施設の改修：施設の維持管理にかかる負担軽減



#### ③新たに石垣島・西部地域へ農業用水を供給：干ばつの解消、高収益作物



水源が無い  
ため、干ばつ  
時は散水車  
による対策  
等が行われて  
きた。



農業用水供給後の営農変化への期待



さとうきびのスプリンクラー散水、施設野菜等の導入が容易になる



# 国営石垣島地区 事業概要イメージ図

できた みる ながみ ぼがすまかい ち くる  
 ~ 太陽め恵み 世界報水 我島美しや 結い心 ~



農業用水供給の営農変化への期待